



藤原重夫(出光興産)

石油精製所における原油の入荷から出荷までの間の各精製工程での混雑について紹介した。

●第9回 日時：昭和57年1月23日(土) 14:00~17:00
場所：東京工大(大岡山キャンパス)南棟5階555号室
出席者：28名

(1) 計算機システムにおける混雑現象のマクロ的解析
高木 誠(日本IBM)

複数窓口待ち行列の最近の結果を用いて、適当な評価規範のもとでの Disk 制御装置の必要台数について検討した。また、ページ・フォルトの解析モデルとして、オーバーヘッド・モデルを解析した。

(2) 論文紹介 大澤秀雄(電通大)

●経営コンサルタント●

●第24回 日時：3月6日(土) 14:00~17:00 場所：東京都勤労福祉会館 テーマ：「コンサルタントとしての孔子とその書物『大學』におけるオペレーションズ・リサーチのシステム」発表者：上田亀之助会員

孔子は儒教の開祖として、その書は従来、宗教・倫理・道徳についてのものとして扱われておりますが、よく読んでみますと、すばらしいオペレーションズ・リサーチのテキストでもあります。そこで2500年昔の書『大學』(わずか205字)を現代的なORむけに読みなおしてみることになりました。『大學』は研究開発・デバッグング・システムデザイン・経営管理・イノベーション(創新)のテキストでもあります。

●環境システム●

日時：3月17日(水) 18:00~20:00 場所：日科技連氏名：有水 彊、小田中敏男、鍋島一郎以上3名

議題：今年度の研究活動を反省し来年度は水質変動の数理モデルに重点を置いて研究することを申合わせた。

●日本における社会システム分析●

昭和57年3月20日(土) 14:00~17:00 小野勝章事務所会議室において開催、出席者10名。

議題：トヨタ自工、トヨタ自販合併の意味するもの(Grand Strategy の見地から)、吉川武男氏。

Grand Strategy の見地からの分析としては、初めてのケーススタディであったが、トヨタ自工の抱えている内部体質の特性、今後考えられるであろう国内情勢および、世界戦略としてのアプローチなど、きわめて厳重な示唆に富む成果が得られた。今後は「未来分析研究部会」として継続的に研究を行なうこととなるが、このような地についた研究を実施の予定である。

●混雑現象と待ち行列●

●第6回 日時：昭和56年10月17日(土) 14:00~17:00
場所：東京工大(大岡山キャンパス)南棟5階555号室
出席者：25名

(1) 広い意味での混雑現象 山田 堯(防衛医大)
公共的・社会的性格をもった財貨や施設、たとえば、道路・別荘・地位・教育等の局地財に対する需要の増加にともなう社会的混雑の実態とその対策について解説した。

(2) 拡散近似——拡散方程式の使い方

木村俊一(東京工大)

待ち行列問題に対する適用範囲の広い近似解法の1つである拡散近似(Diffusion Approximation)において、拡散方程式およびそれから導かれる微分方程式がどのように使われているかを解説した。

(3) 論文紹介 高橋幸雄(東北大)

●第7回 日時：11月21日(土) 14:00~17:00 場所：東京工大(大岡山キャンパス)南棟5階555号室 出席者：21名

(1) 鉄道における混雑(I) 福岡 博(鉄道技研)
新幹線の列車運行に際し、事故による突発的な需要の増加に対して、与えられた評価規範を満たすようなダイヤ・パターン、運行整理手法等を紹介した。

(2) 交換処理モデル(呼処理方式と移動処理モデル)

片山 勁(武蔵野通研)

電子交換機・制御系の交換処理モデルの1つである移動扱者によって処理されるタンデムあるいはネットワーク型の待ち行列モデルの効率的な移動規律をいかに定めるかについて考察した。

(3) 論文紹介 高橋敬隆(武蔵野通研)

●第8回 日時：12月19日(土) 14:00~17:00 場所：東京工大(大岡山キャンパス)南棟5階555号室 出席者：29名

(1) 鉄道における混雑(II) 福岡 博(鉄道技研)
駅構内で交差する旅客流動の構造について考察し、その特徴を明らかにした。また、都市通勤線区で、部分的な列車の乱れが乗車客数の偏在を引き起こし乱れを増幅させることに注目し、乗客の偏在をおこさないダイヤ運行方式について検討した。

(2) 装置産業の設備・貯蔵における混雑